case 相続空き家の活用
逆転の発想で自宅を売却した資金で建てた事例

断熱性に徹底的にこだわり、冬はあたたかく夏は涼しい、心地よい住まいを実現

コンセプト

相続した“実家の空き家”を課題ではなく、新しい暮らしを始めるチャンスと捉えました。
自宅の売却資金を活用し、実家の土地に平屋の新築住宅を計画。
首都圏から遠くない利便性の高いエリアであり、老後をのびのび過ごせる住まいを目指しました。

設計の工夫

夏は厳しい暑さ、冬は冷え込みが強い、そんな地域特性に合わせ、断熱性能を最優先に計画しました。結果として、G2 基準を大きく上回る UA 値 0.38 を達成し、一年を通じて快適に暮らせる住まいを実現しています。
また、空間をすっきり見せるため、収納はひとつのゾーンに集約。多目的シューズクローゼット、ウォークインクローゼット、パントリーなど、用途別の収納をまとめて配置し、家全体の使い勝手を高めました。さらに、家のどこからでも回遊できる多動線プランとすることで、毎日の移動がスムーズになり、暮らしの快適性が一段と向上しています。

どこからでも行き来しやすい動線で、暮らしがよりスムーズに

多目的シューズクローク（左）・ウォークインクローゼット（中）・パントリー（右）など、使い勝手の良い収納をしっかり確保しました

とっても住みやすい小さな平屋

© 2025 住まいるぱる（埼玉県住宅建設事業共同組合）